

ねらいと活用のポイント

一、ねらい

- ・ 体の部分を使った言葉が慣用句には多くあることを知り、慣用句についての興味をもつ。
- ・ 慣用句の表す意味を理解する。
- ・ 慣用句に興味を持ち、進んでさがしたり、使ったりする。

二、指導のポイント

- ・ 慣用句の指導は六年生になって出てきます。ここでは、慣用句とは何かを学習するより、体の一部がつくことばとして、遊びながら語いをふやすことが大切です。自然にことばが身につくようにさせたいものです。
- ・ 問題1では、まず慣用句について理解させ、問題2で実際に意味を考えるようにします。そして問題3で、慣用句をさがして短文を作るといふ形にしてありますが、本来なら、できるだけ多くの慣用句を調べたり、さがしたりする必要があると思います。慣用句遊びを通して児童が自主的に学ぶことがねらいです。
- ・ 慣用句………日常生活の中で使われていて、古くからひとつのことばとして成立し、特別な意味を表すことば。
- ・ ことわざ………慣用的ではあるが、その意味の中に言い伝えや教訓が込められていることば。

体の部分がつくことば

年 組 名前



1、次の慣用句は、どんな意味を表している
のでしよう。□ からえらび、記号を入
れましょう。

- (イ) □ がかたい。
- (オ) □ 耳にたこができる。

右の絵は、人間の体です。むかしの人は、人の体の一部をとって、とくべつな意味を表すことばを作りました。

腹がたつ

は、おなかを立てているのではないですよ。

(しゃくにさわる) という意味です。このようなことばを慣用句といいますが。

- ア、かわいくてたまらない。
- イ、むだ口を言ったり、ひみつをもらしたりしない。
- ウ、おしゃべり。
- エ、少しだけ聞く。
- オ、何回も同じことを言われて聞きあきらむ。

2、次の□の中のことばを使って、意味に合う慣用句を作りましょう。

目 □ 耳 あい のど

ほしくてたまらないよじす。() のど () から手が出る。

とてもつかれて、仕事などがつづけられなくなる。() あい () を出す。

あきれて、話せなくなる。… あいた () □ () がふさがらない。

3、□の中に、慣用句を使って、短い文を一つ作りましょう。

ぼくのいもつとは、目の中に入れてもいたくないほどかわいい。